

学校関係者評価

受審月日 令和5年6月1日(木)

評価者 \*清水 敦哉(済生会松阪総合病院院長) 鶴森 立美(済生会松阪総合病院看護部長)  
 田端 正己(松阪中央総合病院院長) 濱口 早弓(松阪中央総合病院看護部長)  
 畑地 治(松阪市民病院院長) 横山 孝子(松阪市民病院看護部長)  
 富本 秀和(済生会明和病院院長) 越川 由美子(済生会明和病院看護部長)  
 齋藤 真一(松阪厚生病院院長代理) 田米 郁子(松阪厚生病院看護部長)  
 齋藤 洋一(南勢病院院長) 高橋 勇子(南勢病院看護部長)  
 成瀬 美恵(独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター附属三重中央看護学校副学校長)  
 一志 麻奈斗(同窓会「松看会」会長)  
 池田 江里(在校生保護者代表)  
 山崎 千恵子(松阪市障がい福祉課主幹保健師)  
 \*委員長

令和4年度 松阪看護専門学校 学校関係者評価

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	「地域住民の健康と安全を守るために、人を大切にする心と考える力のある看護実践者を育成する」という教育理念は、地域に密着した看護師養成施設として妥当であり、教育目的・目標も適切に設定されています。新カリキュラムのもと、学生、外部講師、関係者への周知や工夫がされており、今後も継続を希望します。
II. 教育課程	新カリキュラムの移行において、看護教育に必要な内容を満たし、加えて地域からの要望、多職種連携なども取り入れて創意工夫がうかがえます。コロナ禍で授業や臨地実習が制限される中で、いろいろ工夫されきめ細やかな指導が実施されています。臨地実習ができずに学内実習に切り替わったこともありましたが、アセスメント能力の向上などに取り組み、得られるものもあったと考えます。カリキュラムが過密な中、スクールギアのバージョンアップなど授業運営の課題へも取り組まれています。今後更に検討され、継続していただきたい。
III. 教授・学習・評価過程	全国でも少ないリハビリテーション専門学校との共同学習など、多職種連携教育を実施され、他の職種とかかわることで得られる多職種連携の必要性が学んでいます。また、地域で活躍されている専門職の方の講義を受け、学生は地域をより身近に感じられ、良い経験となっています。今後も指導方法や連携体制の強化の継続を望みます。また、学生からの授業評価のみではなく、教職員相互の授業の評価や、授業の参観も今後検討いただきたい。
IV. 経営・管理過程	運営会議や施設長会議が定期的に行われ、内容の周知もできています。また、教職員の資質向上にも取り組まれています。財政が厳しい状態ですが、学習・教育環境は整えられており工夫がなされています。更に、教職員が働きやすい環境にも努められている 広報活動も学生の積極的な社会参加があり、評価できます。課題となっている教員不足について、増員確保に向けて引き続き努められ、教職員、指導者の十分な配置にて学生サポートを手厚くしていただきたい。
V. 入学	ホームページは魅力的であり訴求力があります。奨学金も充実しています。少子化の影響や地域的にも厳しい状況で学生数が減少する中、社会人入試や、一般入試の回数を増やすなどの取り組みにより、受験者数が2割増していることは評価できます。一定の質を担保していけるよう今後も工夫を凝らし、受験者数の獲得につなげていただきたい。

<p>VI. 卒業・就業 ・進学</p>	<p>例年非常に高い看護師国家試験合格率は素晴らしい。令和4年度も100%の合格率で、しかも94.7%は松阪地区内に就職されています。今後もより地域とのコミュニケーション、地域医療機関との協力を密にしていき、この状況を保って下さい。また、卒業後の調査を毎年行いその評価を学生指導や教育課程に活かされています。今後、様々な社会活動への参加を通じて、コミュニケーション能力・社会人基礎力の向上を目指していただきたい。学校の取り組みにより、近年の卒業生は同窓会の必要性を理解し、認識が高まっていると感じます。今後、院外講師に卒業生を起用したり、臨地での卒業生の活躍などで、同窓会と学校の連携も強化していくと考えます。</p>
<p>VII. 地域社会・国際 交流</p>	<p>地域行政や保健・医療・福祉関係機関との交流をされており、地域で活躍する看護職の育成に取り組んでいることが伝わります。ボランティア活動、松阪マラソン等、教職員まで積極的に参加されています。松阪市もタガログ語を母国語とする方への支援が増えていて、外国語や文化に触れておくことは今後もさらに必要となってくると思われます。英語はもちろん、海外の方と臆することなく多様性を理解しフレンドリーに接する教育が重要です。外国人と触れ合う機会を増やしていく場も必要であると考えます。</p>
<p>VIII. 研究</p>	<p>研修には積極的に参加されている。研究については、体制は整備されているが発表まで結びついていないのが残念です。しかし、研究への動機づけをするためにOJTに取り組み、少しずつ前進できています。雑誌に執筆したり、看護協会の研修に新カリキュラムの授業の発表が行われたことは十分評価できます。今後も積極的に研究活動を継続していただきたい。</p>
<p>総評</p>	<p>教育理念の根底には、地域についての考えがあり、松阪看護専門学校の特徴です。コロナ禍においても教育理念からしっかりと考えられ、臨機応変に臨床の現場と学校が協力でき、工夫しながら教育できたことは評価できます。今後の課題としては、財政の確保と人材確保である。少子化の中で、教育現場、臨床現場ともに大変な状況ではあるが、学校の良さをアピールして人材確保に努めてほしい。今後も成長が期待される学校です。これからも地域が期待する卒業生の育成に取り組まれることを望みます。</p>